

目次

はしがき

第I部 国衆たちの争乱から天下人による支配へ

第一章 応仁・文明の乱における赤松氏・山名氏の抗争…………… 3

1 播磨・但馬・丹波・摂津・淡路の地域構造…………… 3

播磨 但馬 丹波 摂津 淡路

2 応仁・文明の乱の勃発…………… 6

3 形成される対立構図…………… 8

西軍を率いた山名宗全 東軍を率いた細川勝元 三方国守護を務めた赤松氏 文

正の政変と山名氏・細川氏の対立構図

4 応仁・文明の乱…………… 13

勝元が率いた東軍 宗全が率いた西軍 後南朝の末裔を天皇候補に擁立 南朝皇

胤とは誰なのか 赤松政則の復活 応仁・文明の乱の長期化 將軍家の和睦

5 三方国守護に返り咲いた赤松氏…………… 21

6	山名氏の播磨侵攻	24	赤松氏と加賀国半国守護	赤松氏の三方国守護への復帰	浦上則宗の役割
			赤松氏と山名氏との抗争	山名氏の播磨支配	激化する戦い
					撤退後の山名氏

第二章 畿内の政界再編と赤松氏の衰退……………30

1	細川政元によるクーデター	30
---	--------------	----

細川政元と三人の養子 政界再編の動き 義材の挙兵と明応の政変

2	台頭する浦上村宗	34
---	----------	----

明応の政変後の赤松氏 洞松院尼の力量 山名宗全の死と長期化する和睦交渉

三方国守護となった赤松義村 義村と浦上村宗との争乱 赤松政村と浦上氏、山名氏との抗争 山名誠豊の播磨侵攻 混迷を深めた播磨

3	尼子氏と三好氏の播磨侵攻	44
---	--------------	----

細川一族の内訌 浦上村宗の最期 尼子氏の播磨侵攻 政村の秘策 三好氏の播磨侵攻 晴政の失脚と最期

4	丹波と淡路の国衆	50
---	----------	----

丹波赤井氏の勃興 淡路の守護・国衆

第三章 織田信長の中国計略……………54

1	織田信長の登場と中国計略	54
---	--------------	----

2	明智光秀の丹波攻略	55
---	-----------	----

波多野秀治の裏切り 八上城攻撃の開始 荒木村重の謀反 光秀による小畠氏への指示 本格化した八上城攻撃 光秀による丹波平定

3 苦境に立つ羽柴秀吉 64

上月城の戦いの始まり 上月城に入った尼子氏残党 上月城の落城 荒木村重と
織田信長 村重の謀反 苦しくなった信長 有岡城の落城

4 別所氏と三木合戦 72

三木合戦が始まった理由 別所長治が離反した理由 毛利方に与した別所氏 相
次ぐ信長からの離反 三木城を見殺しにした毛利氏 三木城への凄絶な兵糧攻め
三木城の落城 城兵は本場に皆殺しにされなかったのか

5 秀吉による播磨・但馬・淡路平定 80

長水城の攻略へ 長水城の落城と戦後処理 但馬の情勢 秀吉の但馬平定 秀
吉の淡路平定

第四章 豊臣政権のもとで…………… 88

1 秀吉による支配 88

秀吉の諸政策 秀吉による城割りと諸将の配置 「太閤検地」の先駆け 本能寺の
変と豊臣秀吉の台頭 刀狩令の史料

2 有馬の湯の開発 94

秀吉と有馬の湯 蔵入地としての有馬 その後の有馬温泉

3 西軍に与せざるを得なかった諸将 98

関ヶ原合戦の勃発 脇坂安治・安元の動き 田辺城に向かった丹波・但馬などの諸
将 本意ではなかった田辺城攻め

4 豊臣政権の崩壊 102

関ヶ原合戦後の戦後処理 大坂の陣へ

第Ⅱ部 戦国の社会

第五章 さつまごまなる信仰……………109

1 播磨の寺社とキリシタン……………109

キリシタン大名・高山右近 法華宗と浄土真宗の拡大 広峯神社と伊和神社

2 但馬の寺社……………114

山名氏と禪宗寺院 真言宗から改宗した浄土真宗寺院 山名氏と出石神社

3 丹波の寺社……………117

禪宗の興隆 波多野氏が庇護した浄土真宗 寄進を集めた春日兵主神社

4 摂津の寺社とキリシタン……………120

尼崎でのキリスト教布教 没落する旧仏教 広田神社と多田神社 本興寺と法華宗の拡大

5 淡路の寺社……………124

浄土真宗の展開

第六章 発展する流通経済……………126

1 活発化する商品流通……………126

市と流通の発達 食品加工工業などの発達 尼崎の商人 姫路と商工業 塩業の発達

2 但馬と摂津の銀山……………133

参考文献
あとかき
関係年表
事項索引
人名索引

185 183 177

5

淡路の主要城郭
伊丹城
越水城
瀧山城
花隈城
洲本城
養宜館
173